



TEIKA

Teikyo University of Science

ニュースレター 2011 冬
第23号



いのちをまなぶキャンパス

 帝京科学大学

平成22年11月20日(土)に創立20周年記念式典と講演会が開催されました。

建学の精神とともに 次の10年に向けて



学長
冲永 莊八

平成22年に帝京科学大学は創立20周年を迎え、昨年11月20日に本学千住キャンパスにおいて多くの方々をお迎えして記念式典と講演会が執り行われました。これもひとえに、保護者、地域のみなさま、行政関係者、卒業生など、多くの方々のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

本学の建学の精神は、「人類の将来を正しく見据え、生命の尊厳を深く学び、自然と人間の共生に貢献できる人材を育成し、持続可能な社会の発展に寄与する。」と謳っております。そのキーワードは、生命の尊厳、自然と人間の共生、持続可能な社会、という3本柱であります。これらの柱は各々が独自の意味をもつと同時に、相互が深く関連しております。本学の大学名にも入っている「科学」は、人間の幸福の追求の手段として発展してきました。しかし、自然との共生や持続可能な社会の実現を目指す立場に立つ時、果たしてこれまでのように自然を「無限」なものにとらえてよいのか、科学をわれわれ人間の短絡的な「欲求」の名のもとに推進してよいのかという問いかけとともに、私たちの幸福感の見直しや価値観の変革について改めて考える必要があらうかと思えます。

創立20周年を経た本学は、次の10年、そしてさらに未来へと新たな一歩を踏み出しましたが、これからも建学の精神を基調とし、保護者ならびに地域のみなさまとともに、高等教育機関としての使命を自覚したものでありたいと存じます。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

祝 創立20周年記念式典・講演会

平成22年11月20日(土)に帝京科学大学創立20周年記念式典と講演会が千住キャンパス3号館と本館にて開催されました。当日は天候にも恵まれ、多数の方が来場され20周年を祝いました。その様子をレポートします。

お世話になった先生や懐かしいお顔が

午前10時過ぎに午前の部の会場になっている3号館講堂に着席すると、日頃学内で目にかかる教職員に加え、退職された懐かしいお顔が飛び込んできました。梶原先生、熊倉先生、近藤先生、大津賀先生、宗宮先生、中條先生、堂山先生、難波先生、中村先生、松澤先生、松葉先生、市川先生、佐々木先生ならびに当時お世話になった職員の方々、本日はようこそおいでくださいました。



(上)賑やかな受付の様子。懐かしい先生方もお見えになりました。
(右)冲永莊八学長挨拶。「建学の精神」を再確認しました。

学長の熱い語りと来賓の温かい祝辞

開式にあたり、冲永莊八学長の挨拶がありました。そのテーマは、「建学の精神の意図するところ」と今後の本学の進むべき道についてでした。いわゆる「型どおり」の挨拶ではありません。「生命の尊厳」「自然と人間の共生」「持続可能な社会の発展」をキーワードにぐいぐい迫ってきます。聴き終えた後、心が引き締まったのはレポーターだけではなかったはずでした。

江口英雄上野原市長、近藤やよい足立区長、古田勝久東京電機大学長から祝辞をいただきました。江口市長からは20年にわたる本学と上野原市との関わりを、近藤区長からは「人を育てる」という点から本学への期待を、古田東京電機大学長からは足立区に学び舎をもつ同じ高等教育機関としてエールを送られました。

記念特別講演として本学前学長であり現顧問でもある瀧澤博三先生より「私立大学の役割について」講演いただきました。わが国における高等教育の歴史とともに私立大学の課題について資料をもとにわかりやすいお話でした。



林先生の記念学術講演。

冲永佳史帝京大学学長のご挨拶。

「いのちを学ぶとは」

記念学術講演として元東京大学副学長で現在東京農業大学教授の林良博先生より「いのちを学ぶとは」というテーマで講演いただきました。「望ましい人と動物との関係」を基盤とし、村の日常とコウノトリとの一体感やアホウドリの保護・引越越しを通じた日本人(研究者)の活動などを貴重な映像と柔らかな語りで説明いただきました。また、林先生はアニマルサイエンス学科設立時にアドバイスをいただいた経緯もあり、本学の歩みをよくご存じであり、一層身近な存在に感じられました。

午前の部の終了の前に冲永佳史帝京大学学長よりご挨拶をいただきました。

「20年のあゆみと地域連携」

午後の部では、山本涼一総合教育センター長より「20年のあゆみ」として本学の変遷と発展の歴史が話され、飯島勤地域連携センター長より「地域に根ざした大学として」をテーマに、地域社会と大学との連携を推進し、地域社会とのパートナーシップの構築と地域社会に開かれた大学を目指す旨の表明がなされました。



山本涼一センター長の講演。

浅井えり子客員教授の特別講演。

「学生の地域連携活動」

本学には90団体を越える学生サークルがあり活発に活動しています。今回、以下の7団体が活動内容と地域との結びつきについて発表しました。(1)障がい体験同好会SWATTYは小・中学生に視覚障害者体験や車いす体験をとおして障害者の実態を知り、どのような支援が必要なのかを考える活動を行っています。(2)動物園研究部は上野動物園で「ふれあいコーナー」を担当しています。(3)障がい者乗馬会は乗馬による障害者の心身発育支援・社会参加の促進を目的に、本学のうまセンターを中心に活動しています。(4)森のココベリは上野原市の西原地区を拠点に「人と人」「人と自然」をつなぐ架け橋になろうと西原の住民とともに畑仕事やお茶づくりを行っています。(5)動物の命の大切さを考える部SWEET HEARTは多頭飼育を行政とタイアップしながら解消する活動を行っています。(6)上野原自然探検隊は自然体験を通して小学生に自然に親しみ自然を大切にす気持ちをもってもらうとする活動で、毎年20名程度これまで180名の参加がありました。(7)動物介在教育研究会は「動物ふれあい教室」や「動物飼育体験の補助」などの活動を通して子どもたちに動物への興味・関心を深め「命」に対する責任感を高める活動を行っています。

いずれの活動も学生たちのまっすぐな姿勢とさすがのしさを感ぜさせてくれるものでした。



「私とマラソン」

1988年のソウルオリンピックでマラソン日本代表として活躍され、また、本学の客員教授でもある浅井えり子さんが「私とマラソン-足立とともに-」というテーマで特別講演をされました。中学校時代、陸上部に入学されるエピソードや「時間をかけて、ゆっくりと、長い距離を」走るトレーニング法などユーモアを交えながらの楽しいひと時でした。とくに「できなかったからこそ、次へ続けることができた」という浅井先生の言葉が印象的でした。

本館を出た時は日没で冷え込みも厳しくなってきました。しかし、私は今日の内容を思い出しながら晴れやかで暖かな気持ちで家路についたのでした。

学生のサークル活動と地域の交流レポート

本学には現在、90を超える課外活動団体があり、それぞれが目標を持ち、地域や学外との連携を図りながら独自の活動を模索しています。



自治体主催のイベントに協力しました。



子どもたちに動物の知識を教えています。

SWEET HEART



～動物の命の大切さを考える部～ (顧問:石黒 敏一)

SWEET HEART ～動物の命の大切さを考える部～は、設立10年を迎えた部員数約130名を数えるサークルです。人間と動物の関わりに着目し、ペット、野生動物、実験動物、展示動物、産業動物の5つに分類し、グループ単位の活動を行っています。勉強会や施設見学などとおして動物福祉の理論と動向を学び、それらを普及啓発につなげ、動物の生活環境を改善し、動物と人間をお互いにより良い方向に発展させていくことを目的としています。

5つのグループの一つがペット問題班の多頭飼育活動です。山梨県には、約30年も続いている犬の多頭飼育現場があります。ピーク時は400頭を超え、マスコミでも大きく取り上げられました。2002年より現場での活動を開始し、飼育環境の改善、犬の譲渡、情報発信等で、この多頭飼育現場の問題を解消していくことを目的としています。現在頭数は65頭にまで減少しており、人間により遺棄された動物の飼育頭数0を目指して私たちは日々活動に励んでいます。

リラックスできることで、気持ちも穏やかに動物と接することで、



AAA



動物介在活動部 (顧問:小川 家資)

AAA(動物介在活動部)はAnimal Assisted Activityの頭文字をとったもので、主に高齢者の方々に活動しています。現在行っている活動は大きく分けて以下の3つです。

- ①CAPP(人と動物のふれ合い活動)という団体の方とその団体所属の方々が連れてこられる犬・猫と一緒に高齢者の方と触れ合う活動。
- ②RAAという動物ロボットを使った触れ合い活動。
- ③動物やロボットを使わず、折り紙や塗り絵や散歩などを高齢者の方と一緒にする活動。

高齢者のなかには人との関わりが少なかったり、認知症が進んだ方もみえますが、犬や猫に触れることをとおして、会話が進んだり、昔飼っていたペットを思い出すなどの光景がみられます。

常時活動しているのは10名程度ですが、高齢者の方から笑顔で「また来てね」と言われるのが活動の支えになっています。

小動物の可愛らしさに、参加者の方々の目を丸くして喜んでおられました。



※本文と写真は関係ありません。

テーマを決めて手作りする工作教室とおして子どもたちに生き物の不思議を教えます。



子どもたちに水槽からの餌やりをアドバイス。



AQUASHIP

～水や水の生物の素晴らしさを伝える部～

(顧問:田畑 満生)

私たちAQUASHIPは、水や水の生き物の調査やボランティア活動を通じて「楽しみながら学ぶこと」、「その楽しさを多くの人たちに伝えること」を理念として活動しています。その一環として、毎週日曜日には山梨県立富士湧水の里水族館でボランティア活動を行っており、館内の生物の飼育補佐から、イベントの運営まで様々な活動をさせていただいています。日曜日に行われる「幻の魚」とも呼ばれる伊当への餌やり体験や貝殻工作体験といった小さなイベントから、水族館全体を使った大きなイベントもあり、これらは私たちも企画段階から協力し、AQUASHIPと水族館のスタッフが一つとなって、富士湧水の里水族館を盛り上げています。

詳細は未定ですが、本年(平成23年)2月に同水族館でAQUASHIP名の水槽がオープンする予定です。楽しい企画を考えていますので、どうぞ富士湧水の里水族館に足を運んでください。



がけがわ「垢川調査隊」での投網指導。



桂川漁協と連携した水質調査の様様。



水と生き物を守る会

(顧問:落合 鍾一)

自然環境学科の学生が中心となっている本会は、地域自然環境の理解と保全を目的として活動しています。具体的には、定期的に桂川水系に属する諸河川の水質、魚類、水生昆虫などの水圏生態調査を行うことと毎年6月の世界環境デーに合わせて実施される「身近な水環境の全国一斉調査」において、相模川・桂川流域協議会と連携して鶴川および道志川の水質調査を実施しています。さらに、今年度の地域連携プロジェクトとして桂川漁業組合と連携し、桂川の水質とアユの放流や釣果との関連を調べています。また、千住キャンパスがある東京都足立区の住民や児童を対象としたイベント「がけがわ「垢川調査隊」および「荒川調査隊」へ協力し、採取した水棲生物の観察や投網を指導しています。

このように本会は、行政・地域と連携し、水質調査をおして河川に棲む生き物を見守っています。

吹奏楽部

(顧問:浅倉 恵子)

みなさんこんにちは☆私たち吹奏楽部は本年度、6人の初心者を含む11人が新たに部員となり、計26人のサークルとなりました。

主な活動は夏のコンクールをはじめ、山梨県7大学合同演奏会、科大祭、上野原市商工祭、中央道談合坂上りSAや羽村市動物公園での依頼演奏など、地域の方々と関わる事ができる行事に多く参加しています。また、2010年12月12日(日)にはJR四方津駅で行われた四方津駅100周年記念式典でも演奏を行いました。

そして毎年1年の締めくくりとして行っている定期演奏会を、今回は2010年12月25日(土)に上野原もみじホールで行いました。演奏会終了後に行っている福引は今回で3回目となりました。福引の景品には、上野原商店街のことをもっと多くの人に知ってもらい、利用してもらいたいという思いから、商店街の方々のご協力で商品が提供されています。今回はぶどうジュースや割引券、あんどーなつなどをいただきました。私たちの演奏会には毎回、子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が聴きにきてくださり、たくさんの方から好評をいただいています。演奏も回を重ねるごとに上達しているといので、みなさんも是非一度、私たちの演奏を聴きにきて下さい!

また、年中いつでも部員募集中ですので、興味がある方は是非会館へお越しください。



練習もにぎやかに明るい雰囲気の中で活動中。踊っているときは全員がスターになった気分です。



UNION

ストリートダンス部 (顧問:花園 誠)

私たちが活動しているUNIONでは、UNION主催のA.G.I.T.というイベントがあり、UNIONの部員が中心となって、外部との親睦を深めることを目的に、他大学や外部でダンスをしている人たちを呼び、お互いのダンスを見せ合うというものがあります。また科大祭では、現役最上級生が現役として最後のダンスを踊るイベントです。その中には、オープニング・ストーリーなど部員全員で踊るものから、それぞれのジャンルに分けたチームなどがあります。

そのほか地域との交流の一環として、障がい者乗馬・羽村市動物公園・四方津駅100周年記念祭・上野原のお祭りなどにも参加しています。



陸上競技部

陸上競技部の20年

(監督:こども学科 助教 小山 慎一)



陸上教室(練習会)の様子。子どもたちへの指導に熱が入ります。



1990年、西東京科学大学(現・帝京科学大学)の創立と同時に陸上競技部がスタートしました。本学第一号の「部」としてのプライドと自覚を持って必ずしも恵まれない環境のなか、20年間の活動を行ってきました。この間の学生たちの努力が実を結び、競技面では創部13年目に悲願の関東大会出場を果たし、2010年まで8年連続で出場しています。近年では陸上競技部があるから本学に入学したという学生もいます。さらに創部以来、地元上野原市の駅伝大会への参加をはじめ、北都留郡や山梨県の行事に積極的に参加してきました。一昨年から地域連携活動として上野原市の小学校陸上競技会に向けての児童たちへの陸上教室(練習会)も行っています。この様子は本学こども学科ホームページにも掲載されています。陸上競技部の活動に際してご支援、ご協力いただきました方々に深く感謝いたします。そしてこれからの陸上競技部のさらなる発展のために努力してまいります。

子どもたちへの技術指導の成果が、四方津小学校よりNo.26「あこがれ(平成22年11月)」で紹介されました。やさしく、ていねいな指導に子どもたちも満足、笑顔がいっぱいとのことでした。

学生支援員として活動して

アニマルサイエンス学科4年 高田 育実

子どもたちが理解できる教え方を工夫することが重要だと気づきました。



特別支援教育のボランティアを始めてから1年が経ちました。最初はどのように接して良いのかわからなかった児童たちとも、今ではたくさん話ができるようになり、毎週楽しく活動をしています。私が支援する児童は、授業についていけない子、先生の話をなかなか理解できない子が中心ですが、そうでない子でも困った様子なら、そちらにも声をかけに行きます。

支援が必要な児童には「自分にはできないから」と諦めてしまっている様子の子が多いというのが、活動をとおしての印象です。そのような場合には、自信を持ってもらいたいと思い、ノートの書き方や字の丁寧さを褒め、問題を解けた場合には少しオーバーなくらいに喜ぶようにしています。また教える際には、算数の数字をポケモンの数に例えるなど、子どもの興味がわくような自分なりの工夫をしています。年が近い分、児童の目線に合わせた支援を行えるように、これからも頑張っていきたいと思います。

特別支援教育学生支援員とは

特別支援教育とは、心身に障害のある児童・生徒に対するこれまでの「特殊教育」に加え、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症などの発達障害を新たに対象にした教育プログラムです。平成19年より全国の公立小・中学校で導入され、幼稚園・高等学校へも拡大されています。山梨県では昨年度(平成21年)より学習ならびに

生活上に困難を示している子どもたちへの支援の一環として県内の大学生を学生支援員(学生ボランティア)として派遣しています。本学は初年度から本事業に参画し、昨年は3名、本年は6名の学生が上野原小学校、四方津小学校、上野原中学校で活動しています。

(総合教育センター 教授 三尾真琴)



地域貢献子育て支援活動

Since 2009

「いつも子どもたちの元気な声が聞こえ、そこには保育を学ぶ学生の笑顔があふれる学科にしたい」、こども学科開設時のそんな思いを一昨年、学内の教育推進を目的とした支援を受けて「プレイ広場」という形で実現させることができました。「プレイ広場」は0～3歳児とその母親を対象に毎月2～3回、大学院棟内保育実習室で行われ、現在30回を数えるまでになりました。平均して10組前後の親子が訪れ、保育の専門科目を履修する学生たちも広場に



ピアノの音にあわせて子どもたちも踊る。



知育活動には興味シンシン。



元気な子どもたちは遊びも夢中。

広場の情報

上野原キャンパス大学院棟4階・保育実習室で毎月第2・第3金曜日10時から開催!

子育てプレイ広場とこども学科

こども学科 准教授 木村 龍平

やってくるようになりました。手遊びや紙芝居、音楽遊び、動物介在活動も時々行っています。本来、子育て支援活動の目的は子育て中の母親を心身に渡りサポートすることにあります。この点も学科内の各先生の協力を得て徐々に拡充しつつあります。本学のモットーである地域貢献を行いつつ学科の教育環境を拡充し学生の学習効果を高める、そんな広場提供型の支援活動です。広場の活動をとおして、参加されるお母さん方の輪が広がり子どもたちの友だち作りにも貢献できればと思います。是非気軽にお立ち寄り下さい。

私の研究と研究室の紹介

アニマルサイエンス学科 講師 関口 麻衣子

私は、今年度から上野原キャンパスに赴任したばかりの新米講師です。主に犬や猫などのペットを対象とした皮膚と皮膚病の研究をテーマにしています。具体的にはペットの皮膚機能、毛の色や構造、皮膚病のペットの生活調査、皮膚病の検査方法などについて研究したいと考えています。研究室はできたてのホヤホヤで研究らしい研究はまだまだこれからですが、この秋から入ってきた3年生たちには、皮膚の機能や構造、皮膚病の検査、お手入れの方法などについて学んでもらっています。今は、学科の犬や学生の犬に協力してもらい、ブラッシング、耳掃除、肛門嚢絞り、部分カットなどの基本のお手入れをゼミで行っていますが、まだまだおっかなびっくりです(写真)。来年度は千住キャンパスに研究室が移りますが、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



学生とともにゼミでお世話をしている様子。

「対話による美術鑑賞」の推進

児童教育学科 教授 上野 行一

近年、私の研究活動は「対話による美術鑑賞」の開発とその推進が主たるテーマになっています。日本では伝統的に美術の時間は絵を描いたり、工作したりする表現の授業がその中心でした。

美術作品を鑑賞する授業はほとんどなく、そのことが苦手意識を生んだり、知識に頼る教養主義的な美術鑑賞に偏ったりする傾向を生みだしていると考えられます。

理科離れという現象はよく話題になりますが、美術に対する苦手意識もまた深刻な状況なのです。

「対話による美術鑑賞」は自分の視点で美術作品を鑑賞し、個々の見方を対話によって広げ深める鑑賞方法です。

各地の美術館や学校で開発してきましたが、新しい学習指導要領の重点内容にも位置づけられ、全国の小・中学校の学習の中で、このような授業が進められるようになりました。



化学物質の免疫機能に及ぼす影響を研究しています

生命科学科 教授 前田 康行

化学物質なんて書くとえらく堅いイメージになって、ふだんの生活ではあまり縁がなさそうな気がしますが、実は私たちは日頃から実にたくさんの化学物質を体に取り込んでいるのです。だって、塩は塩化ナトリウム、砂糖はグルコースというれっきとした化学物質なのですから。

ところで、塩や砂糖みたいに昔から私たちが慣れ親しんできた化学物質というのは、人類の歴史とともに存在するのでその素性が十分に知られています。一方、さまざまな化学物質を人工的に作り出せるようになって以来、私たちの身の回りには新しい化合物が増えてきましたが、それらの素性がすべて明らかになっているとは限りません。

とくに、最近問題となっているアレルギーの増加に、私たちの身の回りにある化学物質が関与しているのではないかとされています。私の研究室では、化学物質が生体の免疫機能に及ぼす潜在的な影響を実験動物で検出できないか、マウスやラットを使って研究しています。



研究室にて学生たちとともに。

水圏生態系と私

自然環境学科 講師 橋本 慎治

今年度から自然環境学科で教育・研究に携わることになりました。私が海の環境に興味を持ったのは小学生の頃だったと思います。当時、瀬戸内海では夏になると毎年のように赤潮が発生し、大量の養殖ハマチが死んでいました。その頃から将来海に関係した仕事ができたらと思い始めました。

北海道大学大学院生の時や水産庁の研究所で働いていた時にはアラスカ湾、ベーリング海、北極海へ行き海洋調査(水質や植物プランクトン生産量の調査)を行いました。調査中には時々ザトウクジラが現れたり、オットセイが見学に来たりして私たち調査員を和ませてくれました。

近年、干潟が埋め立てられ、汚染された水が直接東京湾に流れ込み、東京湾は世界でも有数の汚染された湾になっています。少しでもきれいな東京湾を取り戻すことができたらと思います。現在は、東京湾や東京湾に流れ込む河川の水質や生息している生物(主にプランクトン)、東京湾周辺の干潟に生息している生物の調査を行っています。研究室ができて半年余りですが、学生たちと共に私も成長できたらと思っています。



海洋調査中の一コマ。

細菌の持つ特殊能力の医療への応用

東京理学療法学科 教授 真先 敏弘



研究室の仲間とともに。

私はロックフェラー大学細菌学研究室に留学中(写真、左から3人目)、細胞内寄生細菌X(企業秘密なのでXとここでは呼ぼう)の研究に取り組み、この菌の持つ特殊な生存戦略を発見しました。即ちこの菌は細胞を決して殺さず、細胞内に侵入し、細胞を自分の住居として都合のいいように勝手に“リフォーム”して利用し尽くすのです。実はこの特殊能力を医療に応用しようと目論んでいます。近年話題の人工多能性幹細胞は遺伝子工学を使ってヒトの細胞を“リフォーム”したのですが、細菌Xの“住宅リフォーム”はずっと巧みな手口を使います。“フケツ”“キタナイ”などと嫌われ者の細菌ですが、悠久の進化過程で洗練されたさまざまな能力を隠し持ちます。その力を逆手にとって役立てる研究分野が今後ますます熱くなるでしょう。

超音波画像解析 応用臨床学研究とその実践

東京柔道整復学科長 志保井 義忠



超音波画像解析の研究は、今や柔道整復学科が設置されている各大学で基礎研究・臨床研究に活用されており、本学東京柔道整復学科では超音波画像解析とその画像を応用した柔道整復基礎と臨床の研究を行っています。超音波画像はリアルタイムに画像描出し、非侵襲性でありその描出技術獲得には長い時間を要します。さらに重要なことは、超音波画像は反射像であり画像描出しには多くの訓練と修練が必要です。実技実習の時間にこの画像描出技能を理解させる目標を設定しています。

東京柔道整復学科のコンセプトである『外傷(芸術)を科学(哲学)する』を証明する機器として超音波装置を活用しています。軟部組織・四肢の関節・骨等の描出画像を客観的画像情報を瞬間に読み取る技術を得られるように、学生にはグループ別に教員が指導し、画像変化と外形変化との比較を経験させています。臨床経験のない学生ですから一般的な組織変化の捉え方を中心に実践教育を行っています。2～3年の実践教育により学生たちが超音波画像スクリーニングを的確に判断し得るよう期待を込めております。

就職事務室
だより

みなさんの就職活動をサポートします

みなさんご承知のとおり、厚生労働省より「平成22年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査(平成22年10月1日現在)について」が公表され、大学の就職内定率は57.6%となり、前年同期を4.9ポイント下回りました。この内定率は平成8年度の調査開始以来過去最低の水準となっています。

このような厳しい状況の中、就職事務室は就職関連ガイダンスをはじめ企業紹介や就職に向けた各種講座を開催しています。また、学生の適性や自己理解の促進、潜在能力の発掘をスタッフとの面談や心理テストなどを用いて行っています。

本年度(平成22年)から3年生を対象にバスを借り切り合同企業説明会に参加する企画を実施しました。車中では

参加する企業の選定や質問・対応の確認を学生一人ひとりと行いました。同企画を2回実施し、100名程度の学生が参加しました。また、希望学生を募り、「TEIKA就職塾」を開講しています。現在、月曜日と水曜日の2コースがあり、企業研究、自己理解、面接対応など就職活動に必要なスキルを学ぶ体験とおして「気付き」を促す支援を行っています。

就職事務室は学生の要望にお応えできるように情報収集とその提供に努めます。それらの情報を生かすためにもお話を聞かせてください。私たち就職事務室はみなさんの就職活動をサポートします。ご来室を心よりお待ちしております。



保健室
だより

気軽に、上手に、利用してください

保健室では、学内で体調が悪くなった場合やけがをした時などに、応急処置を行っています。学生から時々聞かれる事がありますが、私たちは看護師です。医師や薬剤師ではありません。医療に関する専門知識のある「お姉さん?!」「お母さん?!」と思ってくださって結構です。ですから、保健室に来る時には緊張せず、気軽にいらしてください。病院へ行こうかどうか迷っている、

心をなごませくれる保健室を一度のぞいてみよう。



一人暮らしで不安な事があるといった時にも相談にのります。誰かにちょっと話をしたいという時にも寄ってくださってかまいません。必要であれば、学生相談室のカウンセラーの先生を紹介いたします。また、身長・体重・血圧なども自由に測定できますので、日頃の健康管理にお役立てください。みなさんが、健康で明るい学生生活を送れるよう、応援しております。どうぞ保健室を上手にご利用ください。

- 千住キャンパス(月~土) 担当：荒木・奥野
- 上野原キャンパス(月~土) 担当：戸島・白鳥

図書館
だより

学びの施設をご紹介します

平成22年4月より本学は3キャンパス体制となり、千住図書館、上野原図書館、山梨市図書館の3つの図書館施設を有することになりました。いずれの図書館も本学の学生・教職員は学生証・身分証を持参すれば、自由に利用することができます。また、千住図書館と上野原図書館ではキャンパス間の図書取り寄せサービス(キャンパスローン)を行っています。これは、所属しているキャンパスの図書館から、他キャンパスの図書館にある図書を取り寄せて借りることができるサービスで、料金はかかりません。各図書館に備え付けの申込書に必要事項をご記入の上お申し込みください。今後もキャンパス間で相互に協力し合いサービス向上を図りたいと考えています。次に各図書館を簡単にご紹介します。

【千住図書館】

本館の2階に位置し、4月より蔵書数約2万冊からスタートしました。自動貸出機やブルーレイも見られる最新のAV機器等が設置されています。

- ◆開館時間 平日 8:45~16:45 (今後延長の予定)、土曜日 8:45~12:00

【上野原図書館】

蔵書数は約10万冊です。個人閲覧室やITスクエア等の施設があり、多目的な利用が可能です。

- ◆開館時間 平日 9:20~20:00、土曜日 9:20~12:30

【山梨市図書館】

1号館の4階に位置し、医療系の蔵書約6千冊を備えています。

- ◆開館時間 平日 9:30~17:30、土曜日 休館



千住図書館の真新しいフロア。

活躍する卒業生

(株)名港フラワーブリッジ・商品管理部 石川 慎二さん

私は花の卸売市場で働いています。生産者から仕入れた商品を、花屋さんにセリをとおして届けています。私の仕事は主にセリの準備と商品の仕分けです。セリのために、全国からトラックで次々と運ばれてくる商品に、バーコードを貼り、開始時間に間に合うように片付けていきます。セリは朝6時半から行われるため、出勤時間はさらに早くなります。そのため、友だちとは休みの時間が合わないことが多々あります。

もともと植物が大好きでしたので、学生時代の一人暮らしでもアパートの部屋に飾る植物に熱中していました。また、アパート近くの畑で野菜を作っていたご夫婦と親しくなり、時々畑仕事を手伝ったり話をする中で、植物の人を癒し人を結びつける魅力を再発見しました。

これらの経験から植物に関わる仕事に就きたいと考え、この会社に就職しました。

私には一つの目標があります。それは、大勢のお客さんの前で花を売り込む、セリ人になることです。もっと花の知識を身につけるため、学びながら働いています。

環境科学科(現・自然環境学科) 釘田研究室 2008年度卒業



保護者の声

山崎尚子様(アニマルサイエンス学科4年山崎由香さんのお母様)からメッセージをいただきました。

大阪から一歩も出たことのない娘が、山梨に旅立ってから早4年が経とうとしています。お天気はどうだろうか、学校のホームページのてるてる君で確認し、1時間目の授業に遅れないように電話をかける日々も、いつの間にか子離れし、懐かしい思い出になってきました。

電話で聞く娘の話は、都会にはない星の瞬き、蛍の明かり、漆黒の闇、春には咲き乱れる「のっぺら草」など

上野原で初めて本物の自然を体感したようです。そして、友だちができたこと、授業で聞いたこと、ボランティアや実習で経験したことなどなど、私も大学生活と一緒に体験しているようでした。

大学生活はあなたの一生の宝物です。懐かしい思い出を胸に、ここで学んだ事を生かす何かを見つけてください。これからも楽しみに見守っていきます。

地域に根ざした地域貢献めざして

上野原市立上野原中学校長 小保孝雄先生

私が富士・東部教育事務所の指導主事をしている時、現学長補佐の田畑満生教授とお会いした際に、これからは大学も地域貢献を進めていかなくてはならないというお話をうかがって、早いものでもう10年が経ちました。その時には、アニマルサイエンス学科における地域貢献・地域連携について、どのようなことが出来るのか、どんな方法で進めたらいいのかなど何もかもが試行錯誤の時期でした。その当時は、市内の小学校で飼育しているウサギや小鳥などの小動物の飼い方や動物と児童との交流会などの支援活動はできないかとか、仲間川などの地域での生き物の生態系の調査などの活動とおして、地域の環境調査や小学生と一緒に自然に親しんだり、環境学習などに取り組むことなどが模索されていました。あれから10年。地域とのつながり

に努力してきた帝京科学大学は、上野原市にとってなくてはならない存在になりつつあります。大学の公開講座は勿論、夏休みの小学生対象のもの作り教室、小中学校への学生支援員としてのボランティア活動、さらには小学校の理科教育のサポートするための理科支援員の活動、その他に地域の活性化や地域の要請に応えるため、大学も学生も本当に頑張ってくれています。本校でも、特別支援教育ボランティアとして協力いただいたり、理科の授業を参観してもらったりと交流が続いているところです。今後とも、上野原という地域に根ざした大学教育のあり方、地域に開かれた大学づくりを多に期待しています。



メッセー ジボイ ス 各方面から寄せられた声をお届けします



今年も盛り上がりました 2010年 科大祭

2010年度科大祭実行委員長 山下 裕正

当日は天候にも恵まれ、
快晴の祭日和に。



こんにちは、2010年度科大祭実行委員会委員長の山下です。

今年度の科大祭を無事終えることが出来ました。これも一重に学内団体のみならず、大学関係者、上野原地域住民の方々、外部団体のみならず、協賛企業のご尽力によるものだと思います。言葉でこの感謝の気持ちを表すことができないのが何よりも残念です。私は今年度で委員長としての役割は終了ですが、引き続きみなさまのご理解・ご協力をお願いします。

今回は、「上野原グルメ祭りin科大祭～食べてみ、絶対うまいから!～」という企画を実施いたしました。これは、前号の

ステージでは、嗜好をこらしたさまざまな出し物が続き、用意した席は常に満席という盛況ぶりでした。



ニューズレターで触れました、「大学生と地域住民の方たちがお互いに興味を持ってもらう」という思いのもと企画しました。初の試みでしたがなかなか好評でした。この企画に合わせ「上野原グルメマップ」なる小冊子を発行しました。こちらでも好評で科大祭終了後も小冊子を求める学生が大勢いました。それを見るだけで、夏休みに実行委員会の仲間とともに上野原市内を駆け回った苦労が報われる思いでした。

今年度の科大祭は、私にとって最高の大学祭でした。後夜祭では感極まって泣いちゃいましたし(笑)。来年度も感動のできる科大祭にしていきたいと思っています。みなさん、どうもありがとうございました!!



盛り上がった仲間と記念撮影!

【編集後記】 本学もついに創立20年を迎えました。この20年の本学の歩みを振り返り、後半10年の中核は「学生の課外活動にあった」と編者は総括しております。他大学にはない特長がその中でいくつも結晶化いたしました。

本号の特集記事はそのごく一部です。ニューズレター23号の編集作業を終え、「その特長がますます輝きを増すようにより一層の精進をしよう」と思いを新たにいたしました。

(ニューズレター部会 花園 誠)

発行人: 帝京科学大学 学長 沖永 莊八

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 TEL: 03-6910-1010 (代表)

帝京科学大学ホームページ URL: <http://www.ntu.ac.jp/> E-mail: tustnews@ntu.ac.jp

※ご意見、ご要望をお寄せください。

